

福島潟自然情報

今では幻の白い雁 ハクガン



(写真提供・清水重蔵)

見られる場所：福島潟と周辺の水田

特徴：白いからだ

ピンク色のクチバシ

秋から冬の福島潟では、すっかり枯れたヨシ原の奥から、カモやハクチョウ、そしてオオヒシクイをはじめとしたガンの仲間が鳴きながら飛んでくつきます。またよく響く声で鳴きながら飛んでゆくハクチョウやオオヒシクイの編隊も、しばしば見られます。

福島潟には、オオヒシクイの他、まれにしか見られないガンの種類をあわせると、六種類ほどつてきます。ハクガンも毎年少数が福島潟に渡ってきます。

ハクガンは、その名のとおり体の大部分が真っ白く、クチバシと足がピンク色をした美しいガンで、飛んでいるときは翼の先の黒い部分がよく目立ちます。江戸時代には普通に見られたようですが、百年ほど前から日本ではほとんど見られなくなり、今では飛来する数も全国で毎冬十羽程度に減ってしまいました。これは、ガンが越冬できる環境が減ったことだけでなく、北極圏での狩猟やトナカイの放牧によって繁殖地を追われたことも原因と考えられています。

昨シーズン、福島潟周辺では五羽のハクガンが観察されました。なかなか見る機会の少ない鳥ですが、今年も福島潟で越冬してくれるとよいですね。

(ビュー)福島潟レンジャー 関

旧制高知高等学校長 江部淳夫



少年時代を過ごした照善寺

旧制高等学校の五人の名校長の一人といわれる江部淳夫は、明治十(一八七七)年四月に嘉山で生まれています。小学校卒業後に照善寺の弟子となり淳心と改名し、三条の真宗米北中学寮や明治二十六(一八九三)年に創立した組合立葛塚高等学校で学んでいます。その後、京都の真宗大学(大谷大学の前身で当時は専門学校)に学んだそうですが、保守的な仏教界の風潮を受け入れることができず、明治三十一(一八九八)年に東京の早稲田中学第五学

年に転学し、さらに旧制第一高等学校へ進学し、三番の成績で卒業しています。ちなみに、首席は浦木にある曾我簡堂の碑文を撰文した川田剛の三男で、大正・昭和期の歌人川田順でした。

明治三十五年、東京大学文学部社会学科に進み、卒業後は文部省に入り、熊本の旧制第五高等学校教授、文部省督学官を経て大正三十一(一九二二)年に高知高等学校長となりました。

翌十二年四月、旧制高知高等学校の開校式で、「感激あれ若人、感激なき生活は空虚の生活なり。この感激の中でも全人格を動かすに足るものは人格完成への努力である。」という言葉を書き添えて新入生へ贈っています。

この創始の言葉が要約されて「感激なき人生は空虚なり」の校訓となり、さらに全生徒の座右の銘となつたと伝えられています。

高知高等学校の在任期間は短く、わずか八か月しかありませんでしたが、生徒たちから神様のように慕われ、昭和二十五(一九五〇)年の廃校まで旧制高知高校教育の象徴として神格化されて生徒の崇拜を集めてきたそうです。

(博物館 霨間)

市民の声

VOICE みんなの声

VOICE



長井トシ子さん
豊栄市音楽友の会会長(60歳)
(白新町3丁目)

クラシック音楽の
よりよい環境を願って



'97「長井トシ子チャリティ独唱会」の一コマ

高まるクラシック音楽熱

ここ十年ほどで豊栄の文化活動は、大変活発になりました。眠ったまちら、ようやく目覚めつつあるようです。しかし、お隣の新潟市や新発田市そして聖籠町などに比べてみますと、施設などの面からかなり遅れているように思われてなりません。

私たちは特にクラシックの分野の普及を図ってきましたが、難関が山積みで、その推進が拒まれていきます。しかしそれにもめげず、昭和五十三年、クラシック音楽に携わっていた市民たちが横の連絡をと「豊栄市音楽文化協会」を発足させ、そこでの有志の皆さんが毎年一回、クラシックの定期演奏会を開催したり、これにやや遅れて「ジュニアコンサート」を開催したりしてきました。平成四年、市の援助をいただきながら市民の手で「豊栄市音楽友の会」を発足。広く市民を対象としたクラシックコンサートがようやく開催できるようにな

自由な声やイラストをお寄せください

皆さんのうれしいこと、悲しいこと、新聞を読んだりテレビをみたりして感じたこと、仕事のことなどなんでも結構です。思いつくまま、皆さんの声をお寄せください。また、広報紙に対するご意見やイラストもお待ちしています。

投稿される方へ

投稿は、郵送(手紙・はがき)、米庁などの方法でもかまいません。郵送の場合は、住所、氏名、年齢、学年、電話番号をお書きください。お寄せいただいた原稿は、紙面の都合などで、内容を変えずに一部省略・変更することがあります。ご投稿いただいた方には、粗品を進呈します。

※締め切り 毎月20日

りました。こうした音楽推進活動を通じて市民のクラシック音楽への反響が徐々に高まりつつあると感じています。

本格的な音楽ホールの早期実現を

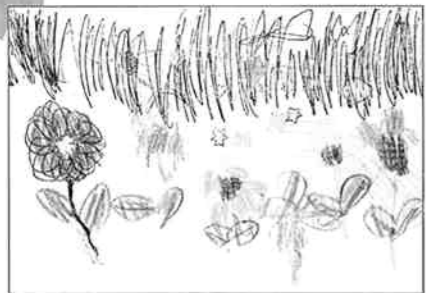
本物に触れたい。いい音が聴きたい。優れたアーティストの息づかいを感じたいという多くの方がいらつしやいます。また、地元で活躍している方々がいらつしやいます。私たちが今、強く行政にお願いしたいことは、優れた音楽環境(本格的な音楽ホール)づくりです。音楽とは演奏者と聴衆者の呼吸の中から高い完成度が生まれ、独創性や豊かな個性は、優れた環境の中で育まれます。ぜひ、具体的にホールの建設を考えていただきたいものです。

また、文化行政の視点から、その視野を拡大していただき、市民とともに文化活動をプロデュースしたり、アドバイスする指導者の確保とともに文化的な目標設定を具体化していくことを強くお願いしたいところです。

投稿先 豊栄市企画財政課広報広聴係
〒950-3393 豊栄市葛塚3197番地 ☎387-3401 内線274



伊藤由香里さん
(6歳 名山)



陸 いずみさん
(8歳 稻荷浦)



ペンネーム
たかはしさん
tetsu